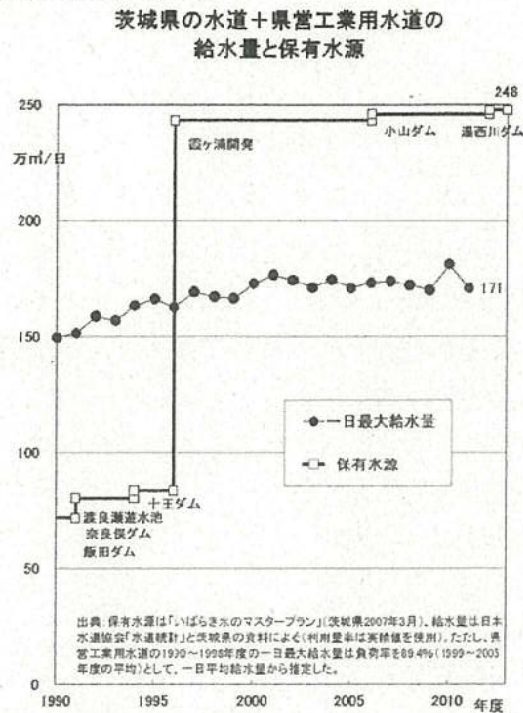


■霞ヶ浦導水事業公述資料

結論：霞ヶ浦導水は不要です。利水の面から理由を述べます。

- 1 茨城県は2011年現在、都市用水(水道水+工業用水)の余剰は日量148.4万トンにも上ります。工業用水を契約余剰で見ても、余剰は108.4万トンになります。霞ヶ浦導水からの茨城県の受水量44.9万トンの必要はまったくありません。
- 2 霞ヶ浦開発の利根川連絡水路は1995年完成以来使われていません。従って東京・千葉の受水量49.2万トンは送られていません。霞ヶ浦導水が完成しても同様でしょう。他都県も水余りなのです。
- 3 昨年10/23茨城県議会予算委員会で橋本知事は「いばらき水のマスタープラン」の目的である水源開発は確保された。今後はダム事業などの計画も無い…以下略」と答弁しました。この時点で霞ヶ浦導水は検証の途上です。不要なのでしょう。



■霞ヶ浦導水事業の開発水量(茨城県分 単位：万トン/日)

水道用水 31.3 工業用水 13.6 合計 44.9

■2011年度都市用水(水道用水+県営工業用水)実績(単位：万トン/日)

	保有水源	契約水量	1日最大給配水量	契約余剰水	給配水率	余剰水
水道用水	169.8		102.6		60.4%	67.2
工業用水	149.5	109.5	68.3	41.2	62.3%	81.2
合計	319.3	109.5	170.9	41.2	53.5%	148.4

※水道用水は給水量。工業用水は配水量。工業用水の配水率は契約水量に対して。

■いばらき水のマスタープランの変遷

計画年度	達成年度	人口予測	給水人口	普及率	1日最大給水量	1人1日最大給量
1991年度	2010年	403万人	393万人	97.5%	198.2万トン	505.00
1996年度	2010年	370万人	362万人	97.4%	145.9万トン	403.20
2001年度	2020年	323万人	323万人	100%	164.0万トン	508.00
2007年案	2020年	297万人	297万人	100%	133.8万トン	450.00

※資料：茨城県水・土地計画課、生活衛生課、茨城県企業局